

必見！小諸ご城下 二大祭りの見どころ案内



御輿（みこし）に赤ちゃんを乗せ、大泣きさせて厄祓い。約2000年前に造られた神輿は、珍しい六角形。当日は子ども神輿も三基繰り出す。



七月十五日(日) *本来は七月十三日

本町・健速神社

祇園祭

疫魔退散！ 暴れ神輿に息をのむ

ヨイヨ、ヨイヨ、ヨイヨ。威勢のいいかけ声が町中に響き、小諸の夏は勇壮な祇園祭から始まります。最近では前夜の市民祭もこしが盛大になり、本祭を知らない市民もいます。延宝三年(一六七五年)より三百三十年余の歴史を持つ健速神輿は、小諸で最も魅力あるお祭です。お昼十二時、大迫力の宮出しは、健速神社の階段下がおすすりビューポイント。見所は盛りだくさん。

夜の九時過。担ぎ縄を切り担ぎ棒の上にとだ乗っただけの神輿がヨイトー、ヨイトーと静かに坂道を登り飯宮に納められると、ようやく祭も終りに向います。民衆のエネルギーで夏の疫病を追い払い、五穀豊穡を祈るために始まった祭。六月三十日深夜の辻々への柱連張りから始まり、祭翌日の柱連切りを経て、ようやく御城下の厄が祓われるという大切な神事。当日、本町は歩行者天国となり、町屋館ではビアガーデンも開店します。「男はつらいよ」寅次郎サラダ記念日(1988年松竹)の冒頭を飾った小諸健速神輿、この夏、一押しのお祭です。★順路図は、ほんまち町屋館にて配付。詳細はこちらまで(0267-25-2770)【健速(たては)神社】 防災除疫・農業の神で暴れん坊の健速須佐之男命を祀る。とても古い神社で、ここに遷されたのは江戸初期。駅から徒歩10分。

九月二日(日) *毎年九月第一日曜日

荒町・八幡神社

八朔相撲

豆力士が気迫の取り組み！

さて、決勝戦での子ども力士の一騎討ち。樹齢四百年の樺の大木の下に響く、ノコッタノコッタの行司の声に、二百人を越す観衆の熱気が膨れあがります。元禄四年(二六九二年)、時の小諸藩主が八幡神社



の祭礼の行事として御前相撲を申し付けたのが始まりで、城下町の秋の楽しみとして続いてきました。十一時、色とりどりのどんすを巻いた豆力士二十名余が、八幡町会館を出発し、町を回ります。十二時、子ども力士はお祓いを受け、土俵開きの済んだ土俵にあがりま

この日、境内にはたくさんさんの屋台も並び、常連の人は早くから場所をとり、飲食しながら、かつての殿様気分分で相撲を楽しみます。【八幡神社】江戸時代の始め、小諸城主・仙石秀久により、美しい社殿と大櫓が見事。駅から徒歩15分。



*八朔=旧暦の8月1日のこと。稲穂が実る頃で「田の実の節句」ともいわれる頃お世話になっている(頼み合っている)人に感謝する日だった。



江戸相撲のスーパースター 雷電為右衛門はここでデビューした！

「天下無双の名力士」と名を馳せた雷電は、一七六七年、現在の東御市(小諸の隣)に生まれました。十八歳で江戸に上り、二十三歳にして雷電為右衛門を名乗り、二十九歳で大関に昇進、引退するまでの十六年間、大関を保持しました。勝率九十六%という驚異の強さで、相撲史上最強の力士と言われています。幼い頃から怪童の噂高く、一説によると相撲好きの小

諸の庄屋に引き取られ相撲の稽古にはげんだとか。十八になり、城下で用事できていた折にたまたま行われていた八朔相撲の土俵にあらがることになりました。その堂々たる体格を見た人々から力士になることを勧められ、江戸に登る決心をしたそうです。雷電の実家の菩提寺である市町の養蓮寺には、彼が江戸から持ち帰ったという鐘が残されています。

